

木と緑をめぐるものがたり

平成 24 年 9 月 29 日から 10 月 28 日は全国都市緑化フェアです。木や緑はむかしから人間にとって身近なものでした。家族のような木、私の木、不思議な木など、木と緑がめぐるものがたりを集めてみました。

(木はいいなあ)

1) A tree is nice (木はいいなあ) / by Janice May Urdy ; pictures by Marc Simont. [New York] : HarperCollins, c1984. 当館請求記号 (Y19-A835)

(出版国 アメリカ) 空に伸びて木陰をつくったり、遊ぶことができたり、おいしい実を食べることができたりする木。木をめぐるさまざまな楽しみを描いています。日本語訳『木はいいなあ』(当館請求記号 Y17-4788)

2) My favourite trees (僕のお気に入りの木) / Barbara Bartos-Höppner ; pictures by Monika Laimgruber. Glasgow : Blackie, 1980. 当館請求記号 (Y17-B8426)

(出版国 イギリス) ジムという少年と、家の周りの木々とのかかわりを月ごとに描いています。

3) ต้นไม้ในสวน(果樹園)/จันทน์ วิสาสะ ; ภาพประกอบโดย ปริดา ปัญญาจันทร์ กรุงเทพฯ : แพร่เพื่อนเด็ก 1998

当館請求記号 (Y17-AZ1110)

(出版国 タイ) 果樹園にはいろいろな木があります。甘い実をつける木もあれば酸っぱい実の木もあります。友達と一緒に果樹園で、実を取ったり、遊んだりします。

4) 椅子樹 (椅子の樹) / 梁淑玲文・圖. 臺北 : 國語日報社, 1998.4. 当館請求記号 (Y17-AZ3320)

(出版国 台湾) 葉を茂らせることもなく、花も実もほんの形程度につけるだけのわがままで自分勝手な嫌われ者の木がありました。でも、ある日、散歩していた巨人・エイトがこの木に座って「なんて気持ちがいいんだ」と言ったことで木は気持ちを変えます。エイトのために、木陰となる葉を茂らせ、花を咲かせます。まわりの鳥や動物たちにも親切になりました。そして、豊かな葉を茂らせた木のまわりは、いまやとても気持ちのいい場所になりました。(日本語訳『いすになった木』当館請求記号 Y18-M99-380)

5) This is the tree : a story of the baobab (これがあの樹です : バオバブの話) / Miriam Moss ; illustrated by Adrienne Kennaway. London : Frances Lincoln, 2001. 当館請求記号 (Y17-B13497)

(出版国 イギリス) アフリカの古くて大きなバオバブの木。そのバオバブの木と周りの動物や人間とのかかわりを描いています。

6) The afternoon treehouse (午後のツリーハウス) / Robert Ingpen. St. Catharines, Ont. : Vanwell, 1997, c1996. 当館請求記号 (Y17-A7546)

(出版国 カナダ) 公園にある古い櫛の木。よく知っていると思っていたこの櫛の木の上にはツリーハウスがありました。それもかなり大きな家です。人はいません。その家には不思議な品物がいろいろありました。その家をしばしば訪れるうちに、僕はツリーハウスについて多くのことを知ります。

7) Daisy Rabbit's tree house (うさぎのひなぎくちゃんの木のおうち) / Penny Dale. London : Walker Books, 1995. 当館請求記号 (Y17-A964)

(出版国 イギリス) 砂端村にはたくさんの動物が暮らしています。うさぎのひなぎくちゃんの一家もここで暮らしています。ひなぎくちゃんにはたくさんお友達がいて、ときどきお友達の家にお泊りに行きます。でも、眠るときになるとおうちが恋しくなります。「じゃあ、みんなで家の庭にある木のおうちで眠ったら？」とお母さんが提案します。みんなは楽しい時間を過ごし、よく眠ることができました。

16) The red tree (赤い木) / Shaun Tan. Sydney : Lothian Children's Books, 2008.

当館請求記号 (Y17-B13040)

(出版国 オーストラリア) 心弾まない日、事態がさらに悪いほうに向かって、暗い気持ちに打ちひしがれて、誰もわかってくれず、すべてがよそよそしい、悪いことばかりが続いて、自分のことさえわからなくなってしまふ・・・でも、そんな日でもひっそりと、あなたを待っている小さな、でも生き生きと輝く赤い木。そう、それが確かに待っていてくれるのです。

17) L' arbre à Kadabras (アブラカダブラ : カダブラの木) / Marie-Sabine Roger, Vanessa Hié. [Bruxelles] : Casterman, c2007.

当館請求記号 (Y17-B12481)

(出版国 ベルギー) 「アブラカダブラ」は呪文の言葉です。「カダブラの木」の発音は「アブラカダブラ」、それだけでもなにやら怪しい感じです。ちいさなトムは、不思議な木々が植えられた庭を持っています。お父さんがいなくなる前に植え、トムに世話を頼んだのです。さまざまな不思議な木々のなかでトムのお気に入りにはアブラカダブラ (カダブラの木) です

18) L' arbre à pluie (雨の樹) / texte d' Agnès de Lestrade ; illustrations de Claire Degans. Toulouse : Milan jeunesse, c2005.

当館請求記号 (Y17-B13057)

(出版国 フランス) ずっと雨の降らない、アフリカのある村の話です。男の子が大地の裂け目から出ている緑の芽を見つけてそれを育てると芽は育って大きな木になりました。木は木陰と水を人々に与えます。それを聞きつけた隣の村の人々が水を貰いにきましたが、村長は拒否します。すると木がどこかに行ってしまいました。みんなが思いやりを持って仲良くするとその木は現れるというアフリカの民話です。

19) The night life of trees (木々の夜の暮らし) / [adapted & edited from the original Hindi narratives by Gita Wolf and Sirish Rao ; art,] Bhajju Shyam, Durga Bai, Ram Singh Urveti. [Chennai, India] : Tara Pub., c2006.

当館請求記号 (Y17-B9494)

(出版国 インド) インド中央部に住むゴンド族に伝わる木にまつわる言い伝えを絵本にしています。昔、木はありませんでした。しかし、最初につくられた人間が「何を食べればいいんですか？」と神に尋ね、神が木を作ったようです。実が小さな鳥のような形をした木、蛇の神様の上に生えている木、歌う木などさまざまな木があります。

20) The big hungry tree (お腹のすいた大きな木) / written by Jo Rothwell ; illustrated by Bryce Rothwell. Warburton, Vic. : Rothwell Publishing, 2009

当館請求記号 (Y17-B12884)

(出版国 オーストラリア) マキシミアンはボールが大好きです。いつもボールを持っています。ある時、ボールを持って公園に出かけたマキシミアンはボールをけります。と、そのボールは木に引っ掛かってしまいました。ボールを落とすにはどうするか。石を投げてみました・・・ダメです。靴を、カギ束を、猫を、お椀を・・・いろんなものを投げてみますが、皆、木に引っ掛かってしまいます。だんだんいろいろな人も集まり始め、さまざまに試すのですがうまくいきません。

21) (木と山羊の伝説)

当館請求記号 (Y17-AZ5784)

فلسفه ای درخت بزرگ و یازده آیه از حدیثی از امام حسن (ع) در کتاب «تذکره اشرف المصنفین» □
1384[2005 or 2006] □

(出版国 イラン) ヤシの木とヤギが出会います。ヤシの木とヤギは自分がいかに素晴らしく、役にたつかを自慢しあいます。ヤシの木は自分は木陰を作る、実はおいしい、繊維はロープにもなると主張します。この話はイランに古くから伝わる伝説で、何回となく版を変えて出されています。当館には別の挿絵画家による作品もあります (当館請求記号 Y17-AZ5784)

22) (いのち)

当館請求記号 (Y17-AZ6120)

الحياة الخالدة في التوتى. أمين قنديل. دار الشروق. [1991]

(出版国 エジプト) 大きな木が切られ、マッチになり、また芽がでて大きな木になるという、木に生命のくりかえしを象徴させています。本書は 1970 年代にパレスチナ政府が作った出版社「アラブの若者社」から出版されたものの復刻です。

(思い入れのある木)

23) Grandpa Green (おじいちゃん緑) / Lane Smith. New York : Roaring Brook Press, 2011.

当館請求記号 (Y17-B14121)

(出版国 アメリカ) おじいちゃんは庭の木でさまざまな形を作っています。それはおじいちゃんの忘れられないものたちで、おじいちゃんの人生なのです。ちいさな男の子はそれをめぐりながらおじいちゃんの人生を知ります。

24) Tess's tree (テスの木) / by Jess M. Brallier ; pictures by Peter H. Reynolds. New York : Harper, c2009.

当館請求記号 (Y17-B12975)

(出版国 アメリカ) テスは庭に自分の木を持っています。大好きな古い大きな木です。ある日、嵐が来てこの木が倒れてしまいました。木は切られて切株になりました。なんで私の木がこんなになってしまうのと、他の木に怒りをぶついたりします。テスは自分の木のためにお別れ会をします。たくさんの人が来てくれました。テスは悲しみから立ち直ります。

25) Naomi's tree (ナオミの木) / by Joy Kogawa ; illustrated by Ruth Ohi. Markham, Ont. : Fitzhenry & Whiteside, 2009.

当館請求記号 (Y17-B13909)

(出版国 カナダ) 戦前のお話です。日本からカナダに移住した若い夫婦は日本から持ってきた桜の種を庭に植えます。種は芽を出し、美しい桜の木になりました。夫婦にはステファンとナオミという2人の子どもが生まれ、2人は桜の木と遊びながら大きくなります。やがて戦争がはじまり、カナダにいた日系人は「敵性外国人」として収容所に入れられます。戦争が終わりましたが、一家は元の家に戻ることはできませんでした。年をとったステファンとナオミは元の家を訪れます。桜の木はありました。二人を待っていたのです。

26) The birthday tree (誕生日の木) / Paul Fleischman ; illustrated by Barry Root. Cambridge, Mass. : Candlewick Press, 2008.

当館請求記号 (Y17-B10521)

(出版国 アメリカ) 海で3人の子どもを失った船乗り夫婦は海の見えない場所へと歩き続け、そこに住みつきます。やがて夫婦に新しい子どもが生まれました。夫婦は子どもの誕生を記念してりんごの木を植えます。子どももりんごの木もすくすくと育っていきます。夫婦には子どもとりんごの木が一体のように感じられます。しかし、大きくなった息子はある日、ふっといなくなります。あの不吉な海にいったのでは・・・そんな時、りんごの木も雷に打たれてしまいます。枯れそうな木に夫婦はさまざまな手当てをします。やがて木は蘇ります。息子の旅も終わったのではと感じた夫婦が家に入ると、なんと、無精ひげをはやした息子が何事もなかったようにベッドで寝ていました！親であることの切なさ子どももののびやかな能天気さの対照がなんともいえません。

27) Little tree (小さな木) / poem by E.E. Cummings ; story and paintings by Chris Raschka. New York : Hyperion Books For Children, c2001.

当館請求記号 (Y17-B14189)

(出版国 アメリカ) 詩人 E.E. Cummings の詩に拠るお話です。小さな木はクリスマス・ツリーになりたいという夢を持っています。やがて、小さな木は小さなトラックで街に運ばれて小さな家に行きます。小さな女の子と男の子がクリスマスの飾り付けをしてくれました。小さな木は自分のあるべき場所に着いたのです、待たれていた場所に。

28) Nursery crimes (植木屋をめぐる犯罪) / Arthur Geisert. Boston : Houghton Mifflin, c2001.

当館請求記号 (Y17-B14141)

(出版国 アメリカ) 植木屋の豚一家は感謝祭に向けて木を七面鳥の形に整えます。しかし、ある朝、その木々が皆盗まれてしまいました。やがて犯豚が捕まり、木々は戻りますが、感謝祭らしく木々はみなこんがり焼けた七面鳥の色(?)に変わっていました。犯罪豚の豚相の悪さがなんともいえません。

(話したり、動いたりする木)

29) Kubbe lager museum (丸太くんの保存博物館) / tegnet & skrevet, Åshild Kanstad Johnsen. [Oslo] : Gyldendal, c2010.

当館請求記号 (Y17-B13980)

(出版国 ノルウェー) 森にすむ丸太くんはいろいろなものを集めるのが趣味です。丸太くんは集めたものを整理して博物館を作ってみました。たくさんの森のなかまや人間たちが見に来てくれました。邦訳『キュッパのはくぶつかん』(当館請求記号 Y18-N12-J143)

30) Yürüyen Çınar (歩く木) / Simla Sunay İstanbul: Remzi Kitabevi 2009 (未整理)
(出版国 トルコ) トルコ建国の父といわれるケマル・アタチュルクはかつてイスタンブールに近いヤ
アロヴァという場所に別荘を建てました。海岸近くで家の傍にプラタナスの木がありました。このプラ
タナスの木の枝が建物に届くようになり、枝を切ることが検討されましたが、自然保護のため家が移動
することになりました。

31) Skutečný příběh Cílka a Lídy (シレクとリダの真実のものがたり) / [František Skála]. V Praze :
Arbor vitae, 2007. 当館請求記号 (Y16-B273)

(出版国 チェコ) これは木のものがたりではなく、単に木を素材とした人間の話でしょうか。木々が
緑に輝く頃、シレクはリダを訪ねていきます。リダと暮らし、村の人々とも知り合いになり楽しい日々
を過ごしているうちに村には雪が降る季節になりました。この大量の写真をを使った漫画・・・これに対
する評価はたぶん人によって大きく分かれるでしょう。しかし、いずれにしても一見の価値はあります。
作者のフランチシェク・スカーラは 2009 年ブラティスラヴァ世界絵本原画展で金のりんご賞を受賞してい
ます。

32) Елка Аленка (もみの木のアリオンカ) / Елена Липатова. Москва :
Китони, 2011. 当館請求記号 (Y17-B13411)

(出版国 ロシア) アリオンカは育ちきっていないモミの木です。駅で買われて、美しく飾られて窓辺
に置かれていましたが、逃げ出して街に出てゆきます。あちこち歩いて、「お母さんに会いたい」と森
をめざします。雪だるまと、アリオンカと 2 人の厳寒おじさんは森にでかけいろいろな動物に遭います。
そして、森で新しい年を迎えます。クリスマスが来て、厳しい寒さとなり新年になるという季節の移り
変わりが下敷きになっています。

(人が木になる、木が人になる)

人が木になった

33) 白塔与丹桂的故事·七星披肩的来历 (白い塔と金木犀の木の話・「七星披肩」の由来) / 王晓明绘画
布谷, 子陵编文 杭州: 浙江少年儿童出版社 1990 (彩绘本中国民间故事) 当館請求記号 (Y2-AZ579)

(出版国 中国) 雲南省、四川省などに住む納西(ナシ)族の民話です。「白い塔と金木犀の木の話」の
話は、悪い龍を封じ込めるために白い塔に変身した若者と、その若者を慕う少女が、いつまでも一緒にい
るために、その隣にある金木犀の木に変身する話です。

34) Sự tích trầu cau / tranh, Nguyễn Công Hoan ; lời, Hoài Nam = The legend of areca nuts and betel
leaves (檳榔の実とキンマの葉) / pictures, Nguyễn Công Hoan ; text, Hoài Nam. Hà Nội : Kim
Đông, c2006. 当館請求記号 (Y17-B12317)

(出版国 ベトナム) タンとランという二人の兄弟がいました。仲が良く、容姿はそっくりでした。父
親が亡くなった後、二人はタンの先生のところに身を寄せます。先生には娘があり、タンと娘は結婚し
ます。ランは家を出ます。ランは悲しみのあまり白い石に変わります。弟を探しにでたタンは見つける
ことができないまま、白い石のそばで檳榔の木に変わります。帰って来ない夫を探しに出た妻は
檳榔の木に巻き付くキンマの木になります。

35) Legenda pohon beringin : cerita rakyat dari Jawa, Indonesia (バンヤンの木の伝説 : インドネシ
アのジャワ民話) / diceritakan kembali oleh Murti Bunanta ; ilustrasi oleh Hardiyono = The legend
of the banyan tree : a Javanese folktale, Indonesia / retold by Murti Bunanta ; illustrated by
Hardiyono. [Jakarta] : Kelompok Pencinta Bacaan Anak, [2001?] 当館請求記号 (Y17-B10341)

(出版国 インドネシア) 悪いお妃のために一番上の王子は妻と共に宮殿を追われます。そして死んで
しまった王子は神様によって大きな木に変えられて生きることになります。兄を慕っていた弟の王子は
鳥に姿を変えて兄を探し続けますが、その木が兄の木とは知らずに探し続けます。

木が人になった

36) Ivasyk-Telesyk:ukrainska narodna kazka (イヴァースク・テレシク : ウクライナ民話) / namaliuvav
Oleksander Koshel. Kyiv A-BA-BA-HA-LA-MA-HA c1997. 当館請求記号 (Y17-A2512)

(出版国 ウクライナ) 子どもがいないままに年をとってしまった夫婦。おばあさんが「森から木を切
ってきてちょうだい」とおじいさんに頼みます。おじいさんが木を切ってくるとおばあさんは、その木
をゆりかごに入れ、歌を歌います。するとその木が子どもにも変わりました。

37) Otesánek (オテサーネク) / Vypráví Věra Provazníková ; ilustrace Luboš Grunt. Praze : Albatros, 1979. 当館請求記号 (Y17-B12188)

(出版国 チェコ) チェコの民話です。幸せに暮らしている夫婦の口癖は「これで、こどもさえいればなあ」でした。ある日、夫は森に行き、子どもの形をした木の切り株を見つけました。ちょっと手を入れると子どもそっくりです。そして、その子が動き出しました。オテサーネクの誕生です。オテサーネクはものすごい食欲を發揮し、夫婦は食べられてしまいます。家を出たオテサーネクによって、まわりの家畜も全て食べられ、野菜も、近所の人も食べられてしまいます。機転を利かせたあるおばあさんがオテサーネクの腹を鋏で叩き割って、みんなを助け出します。

(森は大事)

38) What a country without trees ! (木のない里なんて!) / Ndyakira Amooti ; [illustrated by Michael Kamugasa]. Kampala, Uganda : Fountain Publishers, 1998. 当館請求記号 (Y1-A97)

(出版国 ウガンダ) 少年とおじいさんが小高いところにある自分の家の木の下に座っています。見渡すと遠くに木のない荒れた村が見えます。いったいどうしてそこに木がないのか不思議に思った少年が訊くと、そこは以前、たくさんの木が茂り、動物もいて、水も流れる豊かな村だった、でも人々が木をさまざまな用途に使うために乱伐した結果、こうなったのだとおじいさんが説明します。

39) Dans la forêt du paresseux (ナマケモノの森) / Anouck Boisrobert, Louis Rigaud ; texte de Sophie Strady. Paris : Hélicium, c2011. 当館請求記号 (Y17-B14209)

(出版国 フランス) 動物たちや鳥が楽しく暮らしていた森に、ある日、異様な物音が鳴り響きます。森の木が次々に切られ、動物たちは逃げ出します。動作のゆったりとしたナマケモノもやがて姿を消します。森はすっかりなくなりました。しかし、時が過ぎ、ある日、一人の人が森のあったところに種をまきます。種は芽吹き、また時が過ぎ、木は育ち、かつての森のようになりました。動物も鳥も、もちろんナマケモノも戻ってきました。仕掛け絵本です。播いた種が芽吹く場面も仕掛けになっていて、小さな若木がいっせいに立ち上ります。邦訳『ナマケモノのいる森で』(当館請求記号 Y18-N12-J128)

40) 再見小樹林 (さようなら、ちいさな森) / 嚴淑女文 ; 張又然圖. 台北 : 格林文化事業, 2008.5. 当館請求記号 (Y17-AZ6532)

(出版国 台湾) 主人公は「緑くん」と呼ばれている男の子です。緑くんの家は家々のたてこんだ場所にありますが、家のそばにちょっとした木々がある場所があります。そこは町の人や、動物たちの安らぎの場所になっています。緑くんはこの場所が大好きです。しかし、ある朝、異様な音が・・・新しい建物を建てるといので、木々は切り倒されてしまったのです。

41) Ang aking mga kaibigan sa gubat = My forest friends(森に住む僕の友達) / [script, Mae Astrid Tobias ; illustrations, Jomike Tejido]. Quezon City : Haribon Foundation, 2005. 当館請求記号 (Y17-B12357)

(出版国 フィリピン) アイザックは森の近くに住む男の子です。ある時、森で傷ついた鷺を見つけます。アイザックは鷺を森の中で人が来ない場所に案内します。鷺は自分の故郷の話をし、森の大切さをアイザックに話します。しかし、しばらくすると森の木を切り出す人々が現れ、森も安全ではなくなりました。新しい場所を探そうとするアイザックに、鷺はもう回復したから大丈夫と言って去って行きます。静かな森は木のない騒がしい場所になり、森にいた生き物たちも少なくなっていました。

42) Where have all the trees gone? (木はみんなどこにいったの?) / A. Ofori-Mensah, E.O.A. Asibey ; [illustrations and cover by Therson Buadu]. Legon, Accra, Ghana : Sub-Saharan Publishers, 1998, c1997. 当館請求記号 (Y17-A4904)

(出版国 ガーナ) アクの家には大きな木があります。この落ち葉を片付けるのはアクの仕事です。アクはだんだん面倒になってきました。木を切ってしまうとこの仕事はなくなるのです! アクはさっそく実行に移そうとしますが、おばあさんに見つかります。おばあさんは木や森の大切さについてアクに説明します。